

「最小限完全化授業」—学力多様化に授業多様化を—

菅野 憲司
千葉大学文学部

1. はじめに

本発表では、2節で単位過少習得学生について紹介し、3、4、5節で共通点を吟味して、6節で「最小限完全化授業」の発想を述べ、7節で「最小限完全化授業」を提案して共通点克服が説明され、8節が「最小限完全化授業」の実践例報告予定である。

2. 単位過少習得学生

千葉大学では、既修得単位が、4年次で90単位以下、3年次で80単位以下、2年次で45単位以下の学生を単位過少習得学生として、全学的に指導に力を入れている。卒業要件として卒業単位が124単位の千葉大学文学部の場合、1学年180人定員で、単位過少習得学生が4年次に20名おり、全体の一割を超えて、看過できない問題になりつつある。

本年度学生委員で、主として授業を受講している単位過少習得学生を指導してみて、他の学生と比較してみると、単位過少習得学生は、成績として評点が低く、授業内容の消化が不完全で、授業内容の負担が多すぎると感じている節があるという共通点に気づかされる。この3点を、続く3つの節で、順に吟味していく。

3. 低い評点

単位を取得するとは、普通可以上の評語を得る、即ち、可であるための最低点以上を評点として取ることであるため、あまり単位を取得できないでいる単位過少習得学生が低い評点であることは当然である。単位過少習得が克服されるためには、取得単位の低い評点を上げて、取得単位数も増やしていくと考えることができる。

4. 消化不完全

低い評点の原因として、受講授業における評価方法に相違点があるにしても、授業内容の消化が完全ではなく不完全であることが大きい。消化不完全に対処するためには、消化不完全の要因を取り除くことで、授業形態がさまざまであることを考慮に入れると、消化しなければならぬものを減らすべきである。

5. 負担過多

授業内容の不完全消化は、授業内容が負担として過多であることと直結している。負担が大きいかどうかの識別には微妙な点を含むものの、教員のみならず単位過少習得でない学生を基準にするというよりはむしろ単位過少習得学生をこそ基準にして、負担の大きさが量られ、負担過多が避けられる必要がある。

6. 「最小限完全化授業」の発想

単位過少習得学生に対するこれまでの対策を見てみると、取得単位数が決められた基準に満たない学生を既修得単位一覧から割り出し、単位過少習得学生の指導体制を整えて指導を進めるといふ、少ない既修得単位に焦点を当てて指導する対処療法が主であったことがわかる。

低い評点・消化不完全・負担過多という吟味した3点を、授業を受けるつまり教わる学生の側からの対応ではなく、逆に、単位過少習得学生を教える教員側の対応に役立て、単位過少習得学生にも適した授業を発想できないものであろうか。単位過少習得学生の教え方を念頭において、単位過少習得学生の特徴を負担過多・消化不完全・低い評点の順序で解決していく「最小限完全化授業」がここに発想されることになるのである。

7. 「最小限完全化授業」の提案

本節では、(1)が提案され、単位過少習得の3特徴克服が説明される。

(1)「最小限完全化授業」： 単位取得のための義務を最小限にし、その義務の消化を完全化させ、最高成績を与える授業。

まず、授業内容の負担過多は、単位取得のための義務を最小限にすることで、解決される。教員は職業柄教えることを増やしがちであるが、これが単位過少習得学生にとって負担を過多にしている原因と見極め、最大限ではない最小限こそが要請されていることを認識すべきである。

次に、授業内容の消化不完全は、最小限に減らされた義務を消化しかも完全に消化することによって、解決される。義務が最小限になり、消化され易くなったわけで、消化に不完全を認めてはならず、消化は完全でなければならない。義務の最小化が量の最小化という側面を有するのに対して、義務の消化完全化は質の最小化ならぬ最大化ということが求められるのである。

そして、低い評点は、最小限化された義務の消化完全化により、最高成績が与えられることによって、解決される。教員によって単位取得のための義務が最小化されて、単位過少習得学生によって（必要に応じて教員の対応も得て）その義務が消化完全化されれば、勢い最高成績と評価される訳である。この最高成績を取得することにより、低い評点の底が上げられ、低くない評点つまり単位過少習得からの脱出に繋がることにもなると考えられる。

8. 「最小限完全化授業」の実践報告予定

今年度後期、20名履修の言語機能論演習cで「最小限完全化授業」自体を実践し、履修者が桁外れに多い言語学基礎演習b・英語Ⅲb合同授業で「最小限完全化授業」の多人数履修者授業に応用して実践しており、受講生による授業評価と成績報告を終えて、3月20日当日に実践例報告の予定である。

参考文献

菅野憲司（印刷中）『『最小限完全化授業』の発想と提案—単位過少習得学生の教え方—』
『千葉大学文学部人文研究』第33号。 (2003年12月3日)